

ASAKOIHITO REPORT 2018

朝来市地域おこし協力隊「あさこいひと」
レポート 2018

Since 2015

AKIRA SATAKE
HIDEKI NAKASHIMA
DAISUKE NISHIMURA

Since 2017

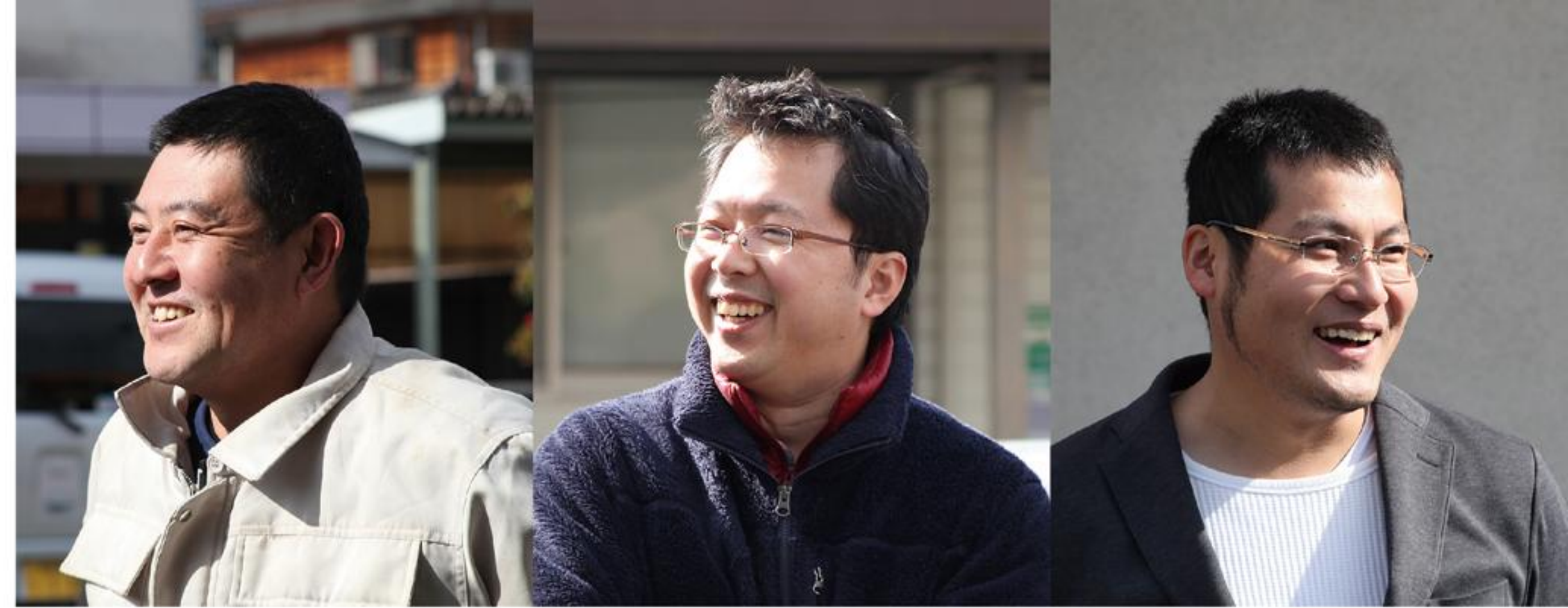
TOMOHIRO HORINOUCHI
TAKASHI NAKAIE

Since 2018

SHINJIRO KANAMARU



ASAKOIHITO REPORT 2018



「あさこいひと」の
これまで
これから

2014年4月1日に結成された、
兵庫県朝来市地域おこし協力隊「あさこいひと」。
この度、退任した3名も引き続き、
朝来市内で新たな活動を展開し始めました。
対談では、これまでの活動と今後への展望を語っていただきます。

また、新たに3名の隊員が加わり、
着実に、劇的に、地域で変化を生み出しています。
個性豊かな隊員たち、その活動をレポートします。

2018年3月

目次	P3	TALK SESSION 佐竹鑑 × 中島英樹 × 西村大輔 (朝来まちづくり機構)
	P5	INTERVIEW 1 堀之内智裕
	P6	INTERVIEW 2 中家宜嗣
	P7	INTERVIEW 3 金丸真次郎

佐竹 鑑 × 中島 英樹 × 西村 大輔
AKIRA SATAKE × HIDEKI NAKASHIMA × DAISUKE NISHIMURA

TALK SESSION 朝来まちづくり機構

3年の任期を終えた3名の隊員たち。
活動を通じて見えた今後のビジョンと
朝来まちづくり機構の活動の形。

**2015年4月に地域おこし協力隊として朝来市
に赴任されて3年。隊員として、この3年間で
振り返っていかがでしたでしょうか？**

西村 私は朝来市あさこ暮らし応援課の一員
として、移住定住のサポート、空き家バンクの
充実につけるミッションに関わりました。業務
を通じいくつものことを学ばせてもらい、任期
終了後に向けての準備期間にもなりました。そ
ういった意味でも、私のミッションは退任後
に本格的にスタートを切ることになります。朝来
まちづくり機構としての移住推進活動や空き家
バンクの拡充。現在、行政のみで推進している
取り組みですが、今後はタッグを組んで、民間

の私達も取り組んでいきたいと思っています。
佐竹 朝来市で活動を行う中で、農業だけで
食べていくのは今すぐは難しいということが分
かりました。ただ、地域資源を活かして生活す
るといふ、1つのスタイルを実践できたと思
います。現在、椎茸の栽培が2年目を迎えました。
毎年生産量が上がるものなので、まだ発展途
上、これからです。今後、朝来市で活動・生活
していくためにも固定のワークスタイルを続ける
つもりはありません。3年間の活動で地域にど
れだけ貢献できたかは分かりませんが、自身
では満足しています。間接的にサポートしてくださ
る方がおられたことがありがたかった。

中島 当初、私のミッションは地域の特産品開
発と高齢者のコミュニティスペースを作ること
でした。かつてメーカーでエンジニアだった職
歴を活かしながら考え、出した結論は「本当に
特産品が必要なのか」ということ。そこで、本
当に必要なミッションを探るべく、ヒアリングを
続けました。活動の中で、市内の子育て世代の
女性陣をターゲットにした「Asago Labo」とい
う市民講座の運営・ファシリテーションをおこ
なう機会があり、大きな学びがありました。受
講生1人1人が感じている、放っておけない・大
事にしたい地域課題に対して、実現に向けてど
うするかを一緒になって悩み、考える。そこで私

あさこいひと宣言

いま朝来市で暮らす人が よりこのまちを愛せるように
このまちに遊びに来るひとが また来たいと思えるように
そして 次の朝日が昇るとき 笑顔で一日を迎えられるように
「あさこいひと」はだれよりも強く朝来に恋をして
みんなと話し合い 協力し合い 時には自らが太陽となり
朝が来るのが楽しみなまちとなるように
朝来の新しい朝を照らします



今後も複数のワークスタイルをバランスよく。(佐竹)
 人が前に進むための場を提供したい。(中島)
 行政とタッグを組んで、民間ならではの取り組みを。(西村)

自身の地域への関わり方も変わってきましたね。人を変えることは難しいが、自分から変わろうと思ってもらえるにはどうしたらいいの。話し合いの場で言い続けたことで、人の感情を逆撫でもしました。でもその中で、話を聞いてくれる人も徐々に現れてきました。

今後の活動についてはいかがでしょうか？

西村 任期中、あさご暮らし応援課と朝来まちづくり機構として活動を展開しつつ、個人の事業として養蜂に取り組みました。そして養蜂を知らなければ、農業のことを理解していないと生業とするには難しいと気づいたんです。そこで、不耕作地で無農薬野菜を作り、それをミツバチが受粉させるモデルを立ち上げようと考えています。狩猟免許も取得しているので、猟師として肉を販売する方向にも業態を広げたい。また「銀の馬車道・鉱石の道」が日本遺産に認定されたことを受け、ガイド育成講座を受講し資格を取りました。日本遺産のガイド、コーディネーターとしての仕事もできればと思っています。

佐竹 私は米作りのほか、椎茸の栽培を仕事として取り組もうと考えています。また、これまで与布土のこども園でのワークショップやサポートに携わっていましたが、任期終了後もお世話になることになりました。そして、朝来まちづくり機構の活動。この三つをバランスよく手がけていきたいと考えています。

中島 現在、メインに考えているのは朝来まちづくり機構の活動です。僕たちのような移住者や、市民の中からもチャレンジする人が増えてほしい。「Asago Labo」のファシリテーターとしての経験を生かして「場」を作ることに取り組みたいですね。「場」と関わることで、その人が変わる・前に進むきっかけを、朝来まちづくり機構としても提供することができればと、そう考えています。

朝来市での生活はいかがでしたでしょうか？

西村 3年前、与布土地域に引っ越して来た当時は新天地での希望もありましたが、同じくらい不安な気持ちもありました。そんな中、地域の方々がいると助けてくださったおかげで心配事が解消されました。皆さんの優しい思いに対して感謝の気持ちがあり、この地に定住し、恩返しができればと思っています。

佐竹 私は子どもをここで育てたいという思いもあり、朝来市へやって来ました。神戸市での生活と比べて、子供の身の安全の心配をしたことないですね。地域で生活するなかで、いつも誰かの目が行き届いているという安心感。都市部と朝来市でその点が全然違うんです。恵まれた環境にいるという気づきました。改めて、良いまちで生活していると感じます。

中島 地方への移住を考えたきっかけは東日本大震災でした。当時のアパートでライフラインが止まってしまい、頼れる人もいなかったのです。そこでコミュニティがいかに大事か気づきました。そして「繋がり」を築けるライフスタイル・ワークスタイルを求めて、地域おこし協力隊にチャレンジしてみました。朝来市で暮らしていると、すれ違う人に挨拶しますし、野菜のお裾分けもいただきます。今は子どもが生まれ、そのことを気にかけていただいています。日常にそういったやり取りがある。朝来市での生活は想像していたとおり、正解だったと感じています。

全国各地で地域おこし協力隊の委嘱人数は増えています。朝来市での活動経験を踏まえ、他自治体へのアドバイスなどがあれば。

佐竹 協力隊は3年間で終わりじゃない。自治体も見守っていただきたいですね。見えないところで無理や我慢をしていたりします。周囲が気づかないことが多々あり、誰に相談すればいいのか分からない悩みもあつたりしますから。

中島 初めに設定される地域のミッションも、果

たして本当にそれが必要なことなのか深掘する必要があります。また生活する上で、地域の「当たり前」を移住者は知らないため、困ることもあります。そのあたりのフォローは必要ですね。

西村 私には幼い子どもがいます。地域活動や集会への参加にあたって、共働き家庭では子どもを預かってくれる身内が近隣に居ないため、子ども園の定休日と重なると、どうしても参加が難しくなる。仕事の背景にある、そういった悩みもありますね。

最後に、朝来まちづくり機構のこれからについて、お聞かせください。

佐竹 昨年度、朝来まちづくり機構としては一般社団法人の法人格を取得しました。これによって空き家の清掃のための登録が法人として一括でできるメリットがあります。移住推進に関して市役所としても協力団体と推進していきたいということで、今後、立候補できる任意団体としての信頼度もより上がります。

西村 前年度は市役所主催の朝来暮らし体験会に朝来まちづくり機構としてスポット参加し活動してきました。今後もそれを業務として受注できる体制作りしておく必要があります。

中島 大切なことは、単なる市役所の下請けにはなりたくないということ。移住者ならではの強みや協力隊のネットワークを活かした、シナジー効果を発揮できるようにしていきたいですね。

佐竹・中島・西村 昨年度、後輩にあたる朝来市地域おこし協力隊の研修会を朝来まちづくり機構の3人で担当させていただきました。私達の3年間の活動経験を伝えていきたい。今後、朝来市外でもメンターとして、協力隊の研修を受注できればと考えています。

※支援が必要な人に対して、指導や助言をする人のこと。



これまでの経験を活かし、「改善」を図る。

INTERVIEW 1

堀之内 智裕

TOMOHIRO HORINOUCHI

これまでメーカーの設計部門で筐体の設計を担当していましたが、33歳のときにベトナム工場の技術顧問として出向することになったんです。この経験が自分の人生観を大きく変えることになりました。ベトナムの人は賃金は少ないのですが、皆がとてもしき生きとしている。働くということ、生きるということを考えさせられたんですね。ベトナムで約3年間勤務したのち、ブレイクマネージャーとして日本へ帰国しました。

帰国後、ベトナムで感じた想いを咀嚼していきたくと色々模索するなか、農業への関心が強まり、社員の傍ら、週末は農業学校に通いました。そして次第に地方への移住を考えるようになっていったんです。そんな折、朝来市地域おこし協力隊の募集を知りました。朝来市は妻の出身地ということもあり、帰省のたびに空気感や季節感が良いと感じていました。応募し、選考の結果、採用となり、2017年4月より活動を始めました。

地域おこし協力隊として、赴任先とそのミッションを選ぶことができ、私は朝来市生野町を選択しました。地元農産物加工所のコーディネートと休耕田の活用というミッションにやりがいを感じたんですね。現在、加工所では高齢化が進んでいて、人手が足りていない状況です。若い世代を採用しようにも、給与面でのハードルが存在していました。そこで、後継者となる若い世代が入りやすいよう給与面の改善を図ることを目的に、まず売上げを改善することを初年度の活動目標としました。新規取引先の開拓や、手が回っていなかった細やかな商品供給、チラシやSNSを活用したPR活動といったことに力を入れ、成果を上げることができました。2年目に入るにあたり今後の活動方針について加工所のメンバーと相談中です。

私自身、ゆくゆくは農業に加えて複数の事業で生計を立てる「複業」を展開していくつもりです。すでに協力隊OBの方々実践されているスタイル。「自分のやりたいこと」を掛け算して生業とすることに取り組んでいきたいと思っています。

1	2
	3

1. 農産物加工所での定例ミーティングでは率直な意見も述べる/2. イベントでは加工所の商品を実演販売/3. 味噌のバック詰め作業も実際におこなった

Profile

大阪府枚方市出身。放送機器メーカーの商品開発部で筐体設計、商品開発、ベトナム・ハノイの生産工場にて技術顧問、管理職を歴任。2017年4月よりいくの地域自治協議会に赴任し、地元農産物加工所のコーディネートや商品開発、プロモーションに携わる。



中島 英樹

千葉県松戸市出身。メーカーでエンジニア、営業職を経て、地域おこし協力隊として朝来市山東町の梁瀬地域自治協議会に赴任。2018年3月、任期を終え退任。

佐竹 鑑

愛知県名古屋出身。兵庫県神戸市で有機野菜のショップを運営。地域おこし協力隊として朝来市山東町の与布土地域自治協議会に赴任。2018年3月、任期を終え退任。

西村 大輔

兵庫県高砂市出身。大手鉄鋼メーカー勤務のち、地域おこし協力隊として朝来市あさご暮らし応援課に赴任。2018年3月、任期を終え退任。



子どもたちに本物のエンターテインメントを。



ジビエの振興と、六次産業化を成し遂げる。



INTERVIEW 2

中家 宜嗣

TAKASHI NAKAIE

これまで大阪、そして東京で働き、とても充足感を感じていました。でもこのまま東京に骨を埋めるのかというと、迷いがあったんです。妻とも「子育てをするなら周囲の環境が良い田舎かな」と、徐々に地方への移住という考えをよくなりました。そんな折、妻と地方自治体のブースが集う移住定住イベントに訪れ、たまたま朝来市のブースに立ち寄ったんです。数ある自治体の中でも朝来市の市職員の熱意にほだされて(笑)。気がつくトントン拍子で朝来市への移住に向けて状況が整っていきました。

朝来市は、ちょうど地域おこし協力隊を募集していたので、応募しました。赴任先は朝来市山東町の粟鹿地域。活動のミッションが「地元産コシヒカリのブランド化」でした。ただ、そのミッションが果たして本当にこの地域の緊急な課題なのか、取り組む中で疑問を感じました。当然、協力隊として与えられたミッションは全うします。ネットショップを立ち上げ、パッケージも作り、販売への道筋を整えています。でも、この地域の一員となり暮らす中で見えてきたこともあります。それは地域に暮らす子どもたちのこと。粟鹿地域の中学生・高校生たちにとって今、求められていることが何なのかを調べ、実現させるということを新たなミッションに追加しました。

僕はもともと、音楽が大好きで。会社員と並行してバンド活動も長く続けてきました。自身のスキルとネットワークを活かすことができ、なおかつ子どもたちにとっても親しみやすい「音楽」をテーマとした、「音楽の郷構想」を現在は進めています。プロミュージシャンの演奏を間近で体感したり、課外授業で実際に楽器を演奏したりと、「本物のエンターテインメント」に触れられる機会を朝来市の人々に提供していきたい。特に、職業の選択肢として、今の朝来市には無い職業を子どもたちに知ってほしいんです。そのためにも都市部と同じクオリティでなければ意味がない。朝来市の協力隊として僕は異色の存在かもしれませんが。でも想いとして、朝来市内の子どもたちに故郷のことを好きになってもらいたいんです。そのためにも、これからも尖った活動を仕掛けていきたいと考えています。

Profile

大阪府豊中市出身。専門学校で音楽を学び、卒業後も会社員と音楽活動を並行しておこなう。大阪ではCM制作会社に、東京では携帯電話会社に勤務。2017年4月より粟鹿地域自治協議会に赴任し、音楽イベントなどの企画・運営をおこなっている。

2	1
3	

1. 企画した音楽イベントに向け、楽器・機材の総点検
2. プロミュージシャンを招いての音楽ワークショップ
3. 地元の小学生の前で演奏の腕前を披露

INTERVIEW 3

金丸 真次郎

SHINJIRO KANAMARU

自分でも異色の経歴の持ち主だと思います。美大を卒業後、お笑い芸人養成所に入所し、芸人として活動していました。ただ、成功できるのは一握りという厳しい世界…焦りも生まれてきました。もともとファッションが好きだったことも高じて、心機一転、アパレルブランド社員としてファッション業界に飛び込んだんです。お笑いの世界と同じ、実力主義の世界。ここでもやるからにはトップを目指そうと、人の何倍もの努力を重ねたという自負があります。その甲斐あってか数年後、旗艦店の店長まで上り詰めることができました。

大きな仕事をやりきったという達成感のなか、休暇で訪れたベトナムとカンボジアで人生観が変わりました。これまでは物質的な豊かさを求めて走り続けていましたが、「生きがい」のあるライフスタイルを求めていたことに気がついたんです。そして以前から興味があった田舎暮らしへの想いが強くなっていきました。まずは農業研修などに参加し、地方での生活の糧を模索し始めました。あるとき大阪で開催された農業フェアへ参加したのですが、そこに朝来市が出展していて、農業政策の充実度や市職員の熱意を知ることができました。決め手となったのは神戸市で開催された「朝来暮らし体験会」です。協力隊員の西村さんとOBの吉原さんとお話することができ、有害鳥獣対策とそれを軸にした起業について伺うことができました。またありがたいことに吉原さんは「鹿肉の解体方法を教えようか?」と仰ってくださいました。こうして朝来市地域おこし協力隊を志望し受験。結果、採用となり、この1月から朝来市での生活のスタートをきりました。

現在は朝来市農林振興課の一員として有害鳥獣対策に携わっています。実際に山林に分け入って、現地での調査業務もおこなっています。また吉原さんからは鹿肉の捌き方を教わったり、要請があればお手伝いも。ゆくゆくは狩猟免許を取得し、ジビエの振興とともに、角や骨、革を有効活用した六次産業化を推進したいと考えています。アパレル時代、かつての主戦場だった百貨店で、自身のブランドや商品を展開できれば最高ですね。

1	2
	3

1. イベントの販売応援ではアパレル時代の接客術が冴える
2. 鹿の角を用いたランプシェードの原案
3. 山林に入り、有害鳥獣の現地調査もおこなう

Profile

大阪府高槻市出身。美大を卒業後、お笑い芸人養成所に入所。芸人として舞台に立つ。その後アパレルメーカーに入社。ショップスタッフ、店長を経て、2018年1月より朝来市産業振興部農林振興課に赴任。有害鳥獣対策に関わりながら、自身も鹿肉加工の研鑽を積む。

あなたはまちの未来
ASAGOING



朝来市

朝来市市長公室総合政策課

〒669-5292 兵庫県朝来市和田山町東谷213-1

TEL. 079-672-6110

www.city.asago.hyogo.jp

